

## 令和6年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

「夢をつなぐ、文化をつなぐ、地域をつなぐ」総合学科高校

「つなぐチカラ」（知識・技術・情報をつなぐ活用するチカラ、人と人をつなぐ協働するチカラ、自分と社会をつなぐ自立するチカラ）を育むことで、社会に貢献する人を育てる。

1. 多様な進路希望を持つ生徒に対し、「活用するチカラ」を育み、「夢をつなぐ（夢を叶える）」学校をめざす。
2. 多様な文化を認め、共に生きることで、「人権意識」、「他を思いやる心」を持つ「協働するチカラ」を育み、「文化をつなぐ」学校をめざす。
3. 「安全で安心」な学校生活、地域との連携の学びから、「自立するチカラ」を育み、「地域をつなぐ」学校をめざす。

## 2 中期的目標

「生徒ファースト～達成感・充実感・納得感～」を基本的な考え方とし、生徒一人ひとりの多様な学びと進路を実現する教育内容と教育環境の一層の充実を図る。また、生徒の心身の状況を把握し、生徒を取り巻くあらゆる状況の変化に対応できる「安全で安心な学びの場」づくりを進める。

※学校生活満足度を令和8年度には80%以上（R3：73%、R4：78%、R5：77%）を達成できるよう取り組む。

1 夢をつなぐ（確かな学力と進路実現）

(1) 生徒の達成感のある授業をめざし、「深い学び～視覚化・構造化・協働化～」をテーマに授業の充実・改善に取り組む。

ア 授業アンケート、授業充実研修、授業見学週間、授業公開を活用し、「深い学び～視覚化・構造化・協働化～」をテーマに授業の充実・改善に取り組む。

生徒が自ら考える活動や課題に取り組む活動を毎時間実施することで、主体的に学びに向かう力を養い、「深い学び」と達成感のある授業へとつなげる。各教科・科目やコアカリキュラム等での探究型学習を通して、思考力・判断力・表現力を養う。

※ 生徒向け学校教育自己診断における授業の満足度を令和8年度には75%以上（R3：62%、R4：65%、R5：72%）とするよう、指導と評価の一体化による授業改善に取り組む。

※ 生徒向け学校教育自己診断「学習で自分が努力したことを認めてくれる」を令和8年度までの3年間引き続き80%以上（R3：73%、R4：80%、R5：81%）をめざす。

イ ICT を効果的に取り入れ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実により学びの深化を図るとともに、教員研修や好事例の共有を継続して1人1台端末を有効活用する授業実践を拡げるよう取り組む。また、臨時休業時等においても生徒の学びを保障できるよう、オンライン学習体制の整備を進める。

※ 生徒向け学校教育自己診断「ビデオ、スライドなどの視聴覚機器やコンピュータやプロジェクタを使った授業がある」の肯定率を、令和8年度までの3年間90%以上（R3：92%、R4：87%、R5：89%）をめざす。

※ 教職員向け学校教育自己診断「コンピュータ等のICT機器が、授業などで活用されている」の肯定率を、令和8年度まで引き続き95%以上（R3：97%、R4：95%、R5：97%）を維持する。

(2) 希望する進路を実現できる「確かな学力」の育成

ア 「総合的な探究の時間」や特別活動及びコアカリキュラムを中心に教科間の連携を有機的に進め、3年間を見通したキャリア教育や人権教育を通して、多様な進路希望を持つ生徒それぞれの夢の実現を図るとともに、進学説明会、就職説明会、分野別説明会、進路体験学習などを一層充実させる。

※ 生徒向け学校教育自己診断における進路指導関係の項目の満足度を令和8年度には80%以上（R3：77%、R4：79%、R5：82%）とするよう、積極的な情報発信と取組みの強化に努める。

※ 令和8年度までの3年間、学校紹介就職率100%（R3：100%、R4：100%、R5：100%）、卒業後に自己実現のための準備に備える者以外の進路未決定率3%以下（R3：0.9%、R4：0.0%、R5：0.0%）を維持する。

2 文化をつなぐ（「人権意識」が身についた「他を思いやる心」をもつ生徒の育成）

(1) 各教科、コアカリキュラム、総合的な探究の時間や特別活動等、あらゆる教育活動において人権教育を一層充実させることで、生命と人権を尊重し、他を思いやる「豊かな心」を持つ生徒を育成する。

ア 人権教育に係る国及び府の関係法令等に基づき、在日外国人や障がい者に係る課題等をはじめ、様々な人権問題について偏見や差別を許さない態度とその解決をめざした教育を総合的に推進する。

イ 「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒」の学習状況や活動状況を校内で共有し、個々の教育的ニーズに応じた支援の充実に努める。

※ 生徒向け学校教育自己診断における人権に関する項目における肯定率を、令和8年度までの3年間引き続き80%以上（R3：85%、R4：84%、R5：82%）を維持する。

※ 保護者向け学校教育自己診断における学校の人権教育に対する肯定率を、令和8年度までの3年間引き続き80%以上（R3：84%、R4：86%、R5：79%）をめざす。

(2) 様々な国にルーツを持つ生徒がともに学ぶ本校の特色を最大限に生かし、国際的な視野や問題発見・解決能力、コミュニケーション能力を育むとともに、SDGsの視点から文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献を理解する教育を推進する。

ア 多文化理解公演会、文化祭等の学校行事、ホームルーム活動、地域行事への参画など、あらゆる機会を通して、相互理解を深め、自己有用感を高め、他を思いやる心を育む。

※ 教職員向け学校教育自己診断「在日外国人に対する偏見や差別のない社会をめざして、主体的な生き方につながる学習となるよう工夫している」93%以上（R3：98%、R4：93%、R5：97%）を、令和8年度までの3年間維持する。

3 地域をつなぐ（安全で安心な学校づくりと地域に信頼される学校づくり）

(1) 生徒の納得感のある指導により、規範意識の醸成と個々の生徒への支援を行う。

ア 「成美高校マニュアル」に基づく教職員共通の生徒対応を通して、生徒の基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成をはかるとともに、いじめ防止対策委員会や生徒指導委員会等での情報共有を通して、生徒が安全・安心に生活できる学びの空間を作る。また、情報社会において適切かつ安全に活用できる資質・能力を育成する情報リテラシー教育を進める。

- ※ 生徒向け学校教育自己診断における生活規律等の基本的な生活習慣に関する項目の肯定率を令和8年度までの3年間引き続き80%以上(R3:74%、R4:80%、R5:82%)をめざす。
  - ※ 保護者向け学校教育自己診断における生徒指導に関する項目の肯定率を令和8年度までには70%(R3:77%、R4:75%、R5:62%)をめざす。
  - イ ケース会議の充実、福祉機関との連携を深め、保護者の協力も得て、教育相談体制をさらに充実させ、障がいのある生徒や課題を抱える生徒の支援を行う。
  - ※ 生徒向け学校教育自己診断における教育相談に関する項目の満足度を令和8年度までの3年間引き続き70%以上(R3:62%、R4:75%、R5:74%)をめざす。
  - ウ 薬物乱用防止研修、食物アレルギーに係る研修等を実施し、生徒の健康と命を守る。
  - ※ 生徒向け薬物乱用防止教室、教職員向け食物アレルギー対応研修を毎年実施する。
  - (2) **生徒の充実感のある学校行事や部活動**を通じて生徒の自主性、自己有用感を醸成する。
    - ア 学校行事や生徒会活動を通してやる気のある生徒のリーダーシップを育てる。
    - ※ 生徒向け学校教育自己診断における学校行事、部活動、生徒会に関する満足度を令和8年度までの3年間引き続き80%以上(R3:71%、R4:76%、R5:82%)を維持する。
    - イ 部活動の活性化に継続的に取り組む。
  - (3) 地域連携
    - ア 学校から積極的に情報を発信し、開かれた学校づくりを推進する。
    - ※ 近隣の中学校との連携や広報活動、地域連携授業、地域のイベントへの積極的参加等を通して、地域に根ざした学校づくりを推進する。
- #### 4 校務の効率化と働き方改革の推進
- (1) 積み重ねてきた教育資源の有効活用と継承、ICTを活用した校務の効率化を進め、教職員の事務作業に係る時間を軽減し働き方改革を進めるとともに、生徒と向き合う時間を確保する。
    - ※ 「成美高校マニュアル」の更新を進め、教職員で丁寧に読み合わせを行うことで、蓄積した教育資源を積極的に活用するとともに、チーム成美としての組織力を高め、業務負担の軽減を図る。
    - ※ 年間平均時間外在校時間を30時間以内および年間時間外在校時間が720時間以上の教職員0人をめざす。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和6年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p><b>【学習指導等】</b> ※ ( ) 内数値は昨年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒項目「授業は楽しく、集中して受けることができる」74.6%(78.1%)と「授業では、実験・観察・実習をしたり、学校外へ見学に行く機会がある」57.4%(64.8%)の項目の数値が低い。楽しい授業は生徒の学校生活に大きく影響する要因であるから授業見学期間等を利用し、互いの授業交流を行って授業改善につなげることが大切である。保護者項目「子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている」65.1%に関して生徒個々が授業を楽しめるようになれば変化するように考える。</li> <li>・教職員項目で8割に達していないものが「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」72.7%、「4年間の学習指導計画(シラバス)について、各教科で話し合っている」69.7%、「指導内容について、他の教科の担当者と話し合う機会がある」69.7%、「到達度の低い生徒に対する学習指導について、全校的課題として取り組んでいる」63.6%、「評価の在り方について話し合う機会がある」78.8%であり、教科指導に関わる部分の情報共有や到達度の低い生徒への適切な指導が不十分であることを示している。次年度以降の課題として教科内での教科指導に関する情報共有と理解・到達度の低い生徒へのフォローが必要であると考ええる。</li> </ul> <p><b>【進路指導等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・例年学年で行っていた進路関係の学年行事を進路行事として整理・再編を行っている。生徒項目「学校生活において将来の進路や生き方について考える機会があり、進路指導が充実している」1年82.8%(75.9%)2年86.8%(82.7%)3年89.0%(80.0%)や保護者項目「学校は将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」93.0%からも進路指導部として方針を出す形に変化させ進路と学年を繋いで実施していくことが良い方向に作用していると推測できる。</li> <li>・生徒の進路決定にあたっては、受け身の姿勢が強い傾向がある。低学年時から、高校卒業後の進路は多種多様であることも含め、自分自身が主体的に動いて進路決定をしていかねばならないという感覚を持たせる指導が必要である。</li> </ul> <p><b>【生徒指導等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者項目「子どもは先生の指導に納得できている」83.7%、「学校の生徒指導の方針に共感できる」81.4%の肯定率は8割を越えているが、生徒項目「学校生活において先生の指導は納得できる」1年77.9%(77.5%)2年74.8%(76.3%)3年80.7%(71.8%)から指導の納得に関する項目は前年度なみであり、8割の目標としていたことからやや低い結果であった。</li> <li>・個々の生徒を見極め生徒に応じた指導を行うことが肝要であると考えられるため引き続き慣例によらない生徒の成長に繋がるような本校生徒に必要な対応を検討していく。</li> </ul>	<p>1回【令和6年6月7日(火)】</p> <p>○令和6年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・美木多地域の歴史の観点から我々の子ども時代と比べると現代の学校は困難さがある。</li> <li>・地域の商店経営者などにも授業で行えることがあれば協力を仰ぐこともできる。</li> <li>・成美高校は地元から通う生徒が多い。地域史を知っておくことでよい影響・興味となるのではないかと考えられる。</li> <li>・生きていく力がこれからは核となる。自分で学ぶ力が重要視され、昔のような一斉授業から様々な協働的な深い学びをテーマにした授業形態に移行している。</li> </ul> <p>○本校の現状について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出身ルーツがバラバラでは4月はお互いに話ができない状況かと思う。大変さを感じ取れる。</li> <li>・翻訳機だけでは解決できない苦労があると思う。定員割れは募集人数とマッチしていないのではないかととも思う。</li> <li>・学校がなくなるというのは地域に文化を発信する役割がなくなるという危険がある。</li> <li>・募集停止にならないように取り組まなければいけない。</li> </ul> <p>2回【令和6年11月19日(火)】</p> <p>○本校の現状について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・退学者が多いことが気になる。退学者のその後について伺いたい。</li> </ul> <p>⇒高校生活への意識が薄くなんとなく入学してみたものの、やはり続けていくのはしんどいと感じる生徒が増加傾向。退学者のその後については、働いている生徒と一旦時間をおいてから改めて考えるとしている生徒が半々。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・配慮・支援が必要な生徒の状況と学校生活の様子を伺いたい。</li> </ul> <p>⇒新学期がスタートした時は介助者や教員の支援のもと自立して行動できていた。ただ、症状の進行が想定していたよりも進んでいる感じなので、車いすの利用を提案しつつ介助者や教員の支援を強化しているところ。</p> <p>○地域連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私学の選抜日程が公立より前倒しの現状が厳しい。</li> <li>・施設面でもトイレなど差をつけられていて小学校・中学校より高校はさらに厳しい。</li> <li>・子どもが育つと地域の外へ出て行ってしまふ。特にニュータウンでは顕著である。</li> </ul> <p>泉北ニュータウンでは現状5クラス校で大規模校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校と中学と間でもっと交わってこうという思いもあって今年度は成美高校を訪問させていただいた。生の声を教員同士で聞けて参考になった。</li> <li>・地域から支えるのは厳しい面はあるが、学校と地域がお互いにリスペクトしながら関係を構築していきたい。</li> </ul>

<p>・生徒項目「先生はいじめなど私たちが困っていることについて真剣に対応してくれる」1年 83.6%(79.3%) 2年 80.8%(90.4%) 3年 88.3%(78.2%)、保護者項目「学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」93.0%の回答から肯定率は高いがいじめは起こってはならないものであるため、生徒が安心して相談できるような体制を維持・改善し100%に近づけていく。</p> <p>・生徒子項目「担任の先生以外に悩みや相談に応じてくれる先生がいる」84.2%・保護者項目「子どもの身体的精神的な悩みについて、先生に相談できる」81.4%の教育相談に関する項目は上昇しており、教職員項目「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる」90.9%の肯定率からも積極的に生徒の悩み相談を行っていることが推測される。今年度同様に学年や学校一丸のチームとして生徒対応を行う必要がある。</p> <p>・生徒項目「学校生活において人権や命の大切さ・社会のルールについて学ぶ機会がある」89.2%(87.7%)・保護者項目「学校は、子どもに生命を大切にす心や社会ルールを守る態度を養おうとしている」90.7%の肯定率は高い数値となっている。LHR 等の人権 HR が生徒の成長に効果的に作用し、生徒が学び成長している実感があるからこそ保護者の肯定率が高い結果となっている。</p> <p>・生徒項目「学校で事件・地震や火災などが起こった場合どう行動したらよいか知らされている」1年 87.7%(76.6%) 2年 89.4%(81.2%) 3年 84.1%(80.0%)はすべての学年で肯定率が上昇している。防災訓練の影響が大きいと考えられるので、次年度も継続して生徒(教職員)に効果的な防災の内容を計画する。</p> <p><b>【学校行事等】</b></p> <p>・今年度は様々な行事に関して前年度から変更改善を加えたが生徒項目「体育祭・文化祭は楽しく行えるよう工夫されている」81.8%、「体育祭・文化祭以外の学校行事(修学旅行等)は楽しく行えるよう工夫されている」81.6%、保護者項目「文化祭や体育祭・修学旅行などの学校行事は生徒が楽しく参加できるよう工夫されている」81.4%、「この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」74.4%から一定数高水準の評価を得ている。</p> <p><b>【その他】</b></p> <p>・保護者項目「子どもは学校や自分のクラスが楽しいと言っている」90.7%、「子どもは、学校に友達がいると言っている」95.3%、「学校は保護者の相談に適切に応じている」95.3%は高い数値となっているものが多く、普段から教職員が保護者と密に連絡をとる姿勢が評価されているのかと思う。今後も発信を継続していくことが肝要である。教職員項目「ホームルーム活動を主とした学級経営の改善に、学級や学年、学校全体で取り組んでいる」81.8%については高ければ高いほどよい。これからも学年や学校一丸としてチームで動く体制作りが必須である。そのためにも運営委員会等を中心に対策を考えていく必要がある。</p>	<p>・文化祭を参観した際に外国人生徒の様子など成美高校の特徴も見受けられた。</p> <p>・地域として力を貸していきたいとは常々考えている。</p> <p>3回【令和7年1月29日(水)】</p> <p>○学校教育自己診断について</p> <p>・チーム対応についてどう取り組んだか説明してほしい。</p> <p>⇒教育相談体制では従来、教育支援委員会の委員長が対応してきたが、どうしても委員長に業務が集中するところが課題であった。一方、生徒が気軽に相談できる部屋は保健室であることから、教育相談の機能を校務分掌の保健部に組み入れ、教育支援主担・自立支援主担に養護教諭・各学年保健部担当を加えた教育相談会議を週1回実施することにより、チームとしての教育相談体制を整えた。</p> <p>・実験実習の具体例と部活動の活性化が本当にできるのかお伺いする。</p> <p>⇒家庭科の調理実習・理科のペットボトルロケット製作・保育実習として地域の幼児との交流・数学科と音楽科のコラボによるピタゴラスイッチの製作および演奏等。生徒の安全確保が課題。部活動の活性化については所属している部員が楽しいと感じる働きかけが必要。</p> <p>・大阪南部の公立高校の重心の授業を見学したことがあるが生徒が理解しているかが課題なので、軽工作を取り入れるなど生徒が授業に参加する雰囲気作りが大切だと思う。</p> <p>・部活動の課題を教員・部員・保護者が協議を重ねる必要性があるのではないかと？</p> <p>・学校HPを広く活用してもらうには学校ブログにアクセスしやすいような画面構成に変更する</p> <p>・教科指導の向上については年間行事計画に教科会議を組み込む・人権に関する文言を今風に変更するといった仕掛けが必要と思う。</p> <p>○令和6年度学校評価(案)について</p> <p>・働き方改革に関連してお伺いする。時間外労働は全体的に多いのか？</p> <p>⇒全体的に多いわけではない。多様な生徒や海外ルーツ生の増加により粘り強い指導と緊密な家庭との連携を必要とした分、担任や生徒指導担当の負担が増加した。早急にチーム対応の体制の確立に努めたい。</p> <p>・多くの項目で肯定率8割超えは誇るべきこと。</p> <p>・案のとおり承認。</p> <p>○令和7年度学校経営に関する基本的な方針(案)について</p> <p>・昨今の猛暑に対する対策をお伺いする。</p> <p>⇒大阪府により本校の体育館にはエアコンが設置されているので、体育館を使用する活動への対応は完了している。ただ、始業式や終業式など全校生徒が体育館に集まるにはエアコンの能力が不足がちなので、暑い時期・寒い時期は各HR教室にてオンライン開催としている。</p> <p>・案のとおり承認</p>
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R5年度値]	自己評価
生徒ファースト・安全で	「生徒ファースト」を基本的な考え方とした教育活動と「安全で安心な学びの場」づくり	生徒の心身の状況を把握し、生徒を取り巻くあらゆる状況の変化に対応できる「安全で安心な学びの場」づくりを進めるため、毎朝の登校時に教職員による挨拶を行い、授業やホームルームにおいて1人1人が大切な存在として人権が守られていることが実感できるよう、きめ細かな声掛けを行う。また、生徒の多様な学びと進路を実現するために、本校独自の取組みや系列における選択科目を見直すことにより教育内容を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒向け学校教育自己診断における学校生活満足度の肯定率75%以上 [76.5%] を維持する。</li> <li>生徒向け学校教育自己診断「この学校には、他の学校にない特色がある」「選択教科は工夫されていて、自分の学びたいことを選べる」の肯定率80%以上 [86%、85%]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒向け学校教育自己診断における学校生活満足度は84.4%であった。(◎) 生徒に丁寧に対応した結果であり、今後もさらに生徒一人ひとりに丁寧な言葉がけを行いたい。</li> <li>生徒向け学校教育自己診断「この学校には、他の学校にない特色がある」「選択教科は工夫されていて、自分の学びたいことを選べる」の肯定率87.7%、85.2%(○)であり、総合学科の特色を活かしている。</li> </ul>
1 夢をつなぐ(確かな学力と進路実現)	(1) テーマ「視覚化・構造化・協働化」とした授業充実・改善の取り組み ア 新指導要領に基づく3観点を伸ばす授業充実・改善の取り組み	(1) ア・主体的に学びに向かう力を養うため、生徒が自ら考える活動や課題に取り組む活動を毎時間の授業に組み入れる。 ・コロナ禍において実験・実習や見学ができない場合の工夫に努める。 ・思考力・判断力・表現力を養うため、探究型学習を実施する。 ・生徒の資質・能力を確実に育成するとともに、生徒の自己肯定感を高めるため、観点別学習状況評価を通じた指導と評価の一体化による授業改善に取り組む。	(1) ア・「授業アンケート」の「授業展開」(生徒が自ら考える時間や発表する活動を多く取り入れている)に関する肯定的意見85%以上 [90.5%] を維持する。 ・生徒向け学校教育自己診断の授業に関する満足度70%以上 [72%] を維持する。	(1) ア・「授業アンケート」の「授業展開」(生徒が自ら考える時間や発表する活動を多く取り入れている)に関する肯定的意見87.5%であった。(○) 今後も引き続き授業改善を進めていきたい。 ・生徒向け学校教育自己診断の授業に関する満足度74.6%で、教員の授業改善が進んだことにより昨年度を上回った。(○)

府立成美高等学校

	<p>イ ICT の効果的な活用と1人1台端末の有効活用</p> <p>(2) 希望する進路を実現できる「確かな学力」の育成</p>	<p>イ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実により学びの深化を図るため、ICTを効果的に取り入れた授業を展開する。</p> <p>・教員研修や好事例の共有を継続して1人1台端末を有効活用する授業実践を拡げる。</p> <p>(2)</p> <p>ア・進路希望に応じた論文や面接の指導、体験学習などの充実と工夫を図る。</p> <p>・進学のための学校情報や奨学金情報などの提供体制を充実する。</p> <p>・進学講習体制確立のため、1年時から面接等を通して生徒の進路希望を把握する。</p> <p>・社会を生き抜く確かな学力が身につけられるよう、コアカリキュラムを通じたキャリアガイダンスを充実させるとともに、探究し表現する活動に3年間取り組む。</p>	<p>・生徒向け学校教育自己診断「先生は学習で自分が努力したことを認めてくれる」の肯定率80%以上 [81%] を維持する。</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断「ビデオ、スライドなどの視聴覚機器やコンピュータやプロジェクタを使った授業がある」の肯定率90%以上 [89%] をめざす。</p> <p>・教職員向け学校教育自己診断「コンピュータ等のICT機器が、授業などで活用されている」の肯定率95%以上 [97%] を維持する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断における進路指導関係の項目の満足度80%以上[82%] を維持する。</p> <p>・1回めの就職試験合格率80%以上 [93.3%] を維持する。</p> <p>・学校紹介就職希望者の就職率100%[100%]を維持する。</p> <p>・卒業後に自己実現のための準備に備える者以外の進路未決定率3%以下 [0.0%] を維持する。</p>	<p>・生徒向け学校教育自己診断「先生は学習で自分が努力したことを認めてくれる」の肯定率90.2%で大幅に上回った。(◎)</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断「ビデオ、スライドなどの視聴覚機器やコンピュータやプロジェクタを使った授業がある」の肯定率90% (○)</p> <p>・教職員向け学校教育自己診断「コンピュータ等のICT機器が、授業などで活用されている」の肯定率97%で昨年度を維持している。1人1台端末を利活用する授業が増えている。今後も有効活用できるよう好事例等を共有し利活用を推進していく。(○)</p> <p>(2)</p> <p>ア・今年度から進路指導部を中心に丁寧な指導を行った。生徒向け学校教育自己診断における進路指導関係の項目の満足度86.4% (○)</p> <p>・1回めの就職試験合格率87.5% (○) 昨年度から学校紹介の就職希望者が大幅に減少したことによる。</p> <p>・学校紹介就職希望者の就職率100% (○)</p> <p>・卒業後に自己実現のための準備に備える者以外の進路未決定率2.94% (○) であった。現実のしんどさを認識しその進路を断念する傾向が強かった。今後は未決定者を出さないように指導を進めていきたい。</p>
<p>2 文化をつなぐ(「人権意識」が身についた「他を思いやる心」をもつ生徒の育成)</p>	<p>(1) 生命と人権を尊重し、他を思いやる「豊かな心」を持つ生徒の育成</p> <p>ア 様々な人権問題の総合的な推進</p> <p>イ 「帰国生徒・外国人生徒」個々の教育的ニーズに応じた支援の充実</p> <p>(2) 国際的な視野や問題発見・解決能力、コミュニケーション能力の育成とSDGsの視点による文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献を理解する教育の推進</p> <p>ア 「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒」と「日本人生徒や地域の方々」との相互理解</p>	<p>(1)</p> <p>ア・在日外国人に係る諸課題や、障がい者、生と性、感染症等の様々な人権問題について偏見や差別を許さない態度とその解決をめざした教育を総合的に推進する。</p> <p>イ・「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒」の学習状況や活動状況を校内で共有し、個々の教育的ニーズに応じた支援を着実に実行する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・あらゆる機会を通して、「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒」と「日本人生徒や地域の方々」との相互理解を深め、自己有用感を高め、他を思いやる心を育むために、多文化理解公演会、文化祭等の学校行事の実施、部活動を通じた校外活動、地域行事に積極的に参画する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断の人権に関する項目における肯定率80%以上[81.5%]を維持する。</p> <p>イ・保護者向け学校教育自己診断の人権教育に対する肯定率80%以上 [79%] をめざす。</p> <p>(2)</p> <p>ア・教職員向け学校教育自己診断「在日外国人に対する偏見や差別のない社会をめざして、主体的な生き方につながる学習となるよう工夫している」の肯定率93%以上 [97%] を維持する。</p> <p>・中国文化春暁倶楽部および国際文化部の生徒、卒業生とゲストによる多文化理解公演会を [2回] 実施する。</p> <p>・高大連携、および地域連携による「生と性を考える授業」等を2回 [3回] 実施する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断の人権に関する項目における肯定率89.2%であった。人権に意識を常に持ち続けて教育活動を進めた結果である。(◎)</p> <p>イ・保護者向け学校教育自己診断の人権教育に対する肯定率90.7%であった。学校が家庭としっかりと連携し、対応できた。(◎)</p> <p>(2)</p> <p>ア・教職員向け学校教育自己診断「在日外国人に対する偏見や差別のない社会をめざして、主体的な生き方につながる学習となるよう工夫している」の肯定率90.9%であった。海外ルーツ生に対する指導の在り方を今後研修等で深めていく必要がある。(△)</p> <p>・多文化理解公演会を昨年度まで2日に分けていたものを1日に集約し実施した。これまで以上に工夫されたものになった。(○)</p> <p>・高大連携、および地域連携による「生と性を考える授業」等を2回実施。(○)</p>
<p>3 地域をつなぐ(安全で安心な学校づくりと地域に信頼される学校づくり)</p>	<p>(1) 生徒の規範意識の醸成と個々の生徒への支援</p> <p>ア 「成美高校マニュアル」に基づく教職員共通の生徒対応を通じた基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成、いじめ防止対策委員会等での情報共有を通じた安全・安心の空間づくり</p> <p>イ 教育相談のさらなる充実</p>	<p>(1)</p> <p>ア・全教員による登校指導を毎朝継続して実施するとともに、声掛けを行う。</p> <p>・高い規範意識を育み基本的生活習慣を確立させるため、きめ細かな生活指導を行う。</p> <p>・中高連携による生徒支援を充実させる。</p> <p>・生徒にとって安全・安心に生活できる学びの空間をつくるため、いじめ防止対策委員会や生徒指導委員会等を定期的に開催し、生徒情報の共有による課題への早期、予防的対応を行う。</p> <p>イ・カウンセリングマインド、共感的な姿勢で教育相談を進める。</p> <p>・担任以外にも生徒が相談しやすい教職員に出</p>	<p>(1)</p> <p>ア・遅刻回数を前年度 [8320回] 以下とする。</p> <p>・懲戒件数を前年度 [47件] 以下とする。</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断の基本的生活習慣の確立に関する肯定率80%以上 [82%] を維持する。</p> <p>・保護者向け学校教育自己診断における生徒指導に関する項目の肯定率70%以上 [62%] をめざす。</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断の教育相談に関する項目における肯定率70%以上</p>	<p>(1)</p> <p>ア・遅刻回数は8295回であった。(○) 今後も粘り強い指導を継続していく。</p> <p>・懲戒件数は44件であった。(◎)</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断の基本的生活習慣の確立に関する肯定率85.6%であり、今後も生活習慣をしっかり確立していく指導を続けていく。(○)</p> <p>・保護者向け学校教育自己診断における生徒指導に関する項目の肯定率81.4%であった。家庭と密に連携ができた結果である。(◎)</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断の教育相談に関する項目における肯定率84.2%であった。教員が日頃からしっかりと生徒を把握し対応した結果</p>

	<p>ウ 薬物乱用防止研修、食物アレルギーに係る研修等の実施</p> <p>(2) 生徒の自主性、自己有用感の醸成 ア 学校行事、生徒会活動を通したリーダーシップの育成 イ 部活動のさらなる活性化</p> <p>(3) 地域連携 ア 地域から信頼される開かれた学校づくり</p>	<p>会えるようになることを意識して、教職員が日常の教育活動において声掛けを行っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育支援委員会（毎週）で課題を抱える生徒の状況を把握し、支援を行う。</li> <li>・SC, SSW との緊密な連携とケース会議、関係諸機関との連携を図る。</li> <li>・生徒支援に係る重要な情報は、秘密厳守で教職員全員が共有し、すべての教職員で見守りと支援・指導にあたる。</li> </ul> <p>ウ・生徒向け薬物乱用防止教室、教職員向け食物アレルギー対応研修を毎年実施し、生徒の健康と命を守る。</p> <p>(2) ア・生徒会役員や部活動生徒のリーダーシップを育成するため、体育祭、文化祭等の学校行事や学校説明会等における企画運営を生徒が担うように組織し、活躍する場を適切に設定する。</p> <p>イ・部活動への参加を促進するため、新入生オリエンテーション、体験入部（中学生、新入生）を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動のさらなる活性化のために、日常の活動や大会・コンクールの様子をブログに掲載し、生徒の活躍する様子を発信する。</li> </ul> <p>(3) ア・近隣中学校等との情報共有・連携を充実させるとともに、広報活動を組織的に行う。 <li>・各部活動を通じ地域のイベント等に積極的に参加する。</li> <li>・生徒会役員、部活動部員、PTA により、地域清掃等のボランティア活動を行う。</li> <li>・保護者に教育活動の様子が伝えられるよう、学校行事・部活動・地域交流等の取り組みの様子をブログに掲載する。</li> <li>・開かれた学校づくりを推進するため、地域施設との相互連携、地域連携授業を継続して実施する。</li> </p>	<p>[74%] を維持する。</p> <p>ウ・生徒向け薬物乱用防止教室を夏休みまでに外部講師を招いて実施する。[1回]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いつでも全教職員が対応できるように、教職員向け食物アレルギー対応研修を年度当初に実施する。[2回]</li> </ul> <p>(2) ア 生徒向け学校教育自己診断における学校行事・部活動・生徒会活動に関する満足度 80%以上 [82%] を維持する。</p> <p>イ・年間2回、中学生向けの体験入部を開催 [2回] する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大会やコンクールの入賞数 10 件以上 [30 件]</li> </ul> <p>(3) ア・年度末・当初および年度中間における近隣中学校の訪問を 5 回以上 [4 回] 実施し、切れ目のない連携を行う。 <li>・地域のイベント参加数 25 件以上 [29 回]</li> <li>・HP、ブログなど家庭への情報発信を充実させ、保護者向け学校教育自己診断アンケートの情報発信の肯定度 70%以上 [65.5%] をめざす。</li> </p>	<p>である。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育支援委員会で定期的に情報の共有を行い、素早い生徒の支援につなげることができた。</li> <li>・SC, SSW が列警してのケース会議は 2 回行った。</li> <li>・職員会議で生徒情報の共有を行い教職員全員で見守りを行うことができた。</li> </ul> <p>ウ・生徒向け薬物乱用防止教室を夏休みまでに外部講師を招いて 1 回実施した。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いつでも全教職員が対応できるように、教職員向け食物アレルギー対応研修を年度当初に 1 回実施した。(○)</li> </ul> <p>(2) ア 生徒向け学校教育自己診断における学校行事・部活動・生徒会活動に関する満足度 81.7%であった。さらに生徒主体で活動できる機会を増やしたい。(○)</p> <p>イ・中学生向けの体験入部を 2 回開催した。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの生徒の頑張りが結果につながり、昨年度を大きく上回る入賞を果たした。大会やコンクールの入賞数 52 件 [30 件] (◎)</li> </ul> <p>(3) ア・年度末・当初および年度中間における近隣中学校の訪問を 4 回実施し、連携を行った。目標には届かなかったがこれまで以上に様々な情報の共有や連携を行うことができた。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のイベント参加数 20 件</li> <li>・部活動の在り方や働き方改革の中で出演するイベントを精選した。(△)</li> <li>・保護者向け学校教育自己診断アンケートの情報発信の肯定度 79.1%であった。HP、ブログなど家庭への情報発信を充実させ、情報の発信に努めたい。(◎)</li> </ul>
<p>4 働き方改革の効率化と校務の推進</p>	<p>(1) 教育資源の有効活用と継承、ICT を活用した校務の効率化と働き方改革</p>	<p>(1) 成美マニュアルを全面改訂して業務を精選したり機能的に遂行したりすることと、合わせて引き続き ICT 機器の利活用により校務の効率化を進めることで、積み重ねてきた教育資源の有効活用と継承を行い、教職員の事務作業に係る時間を軽減し働き方改革を進める。</p>	<p>(1) ・時間外勤務月 80 時間以上の職員数を前年度より減少させる。[8 名]</p>	<p>(1) ・時間外勤務月 80 時間以上の職員数は 11 名で増加した。様々な課題を抱える生徒の対応を丁寧に行ったためである。今後は削減できる業務や効率的に業務を行えるように検討していく。(△)</p>